



水俣市・芦北郡各町対抗陸上競技大会で活躍する津奈木町の選手。4ページに連記事。

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

7月の行事

- 4日 特設人権相談（役場1階和室）
- 7日 グリーンゲイト9周年記念イベント（～7/8）
- 12日 楽しい子供の美術展（つなぎ美術館）（～7/31）
- 20日 海の日／不知火海クリーン作戦
- 29日 つなぎ美術館ワークショップ

2001
Vol.426



21世紀はお任せ!
赤ちゃんこんにちは!!

むらかみ ゆきな
村上 幸名ちゃん
(古川地区)
平成12年6月8日生まれ

の ぐち ひゅうが
野口 飛河くん
(新川地区)
平成12年6月1日生まれ

パパから一言
お姉ちゃんといっしょに、やさしく思いやりのある子
ママから一言
食欲満点の元気ママン。お姉ちゃんと仲良く元気にスクスク育ってね。



パパ 健太さん ママ 麻由さん

ご寄附・ご芳志お礼 (敬称略)

◎社会福祉協議会へ
【香典返し】

地区名 世帯主 故人
新川 山口 登 登語
古川 古川 秀 喜 ミサヲ
浜崎 浦口 よの子 円 作

以上の方々から香典返しとして金一封をご寄附いただきました。ご意志に添い有効に活用させていただきますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

町の人口と世帯数 (平成13年6月1日現在)

人口総数 5,957 (+ 6)
(男) 2,862 (+ 6)
(女) 3,095 (- 1)
世帯数 1,972 (- 3)

●募集します●

「赤ちゃんこんにちは!!」に掲載を希望される方は役場企画課までご連絡ください。対象児は町在住の2歳未満児です。

☎ 78-3111 (223)

へんしゅう後記

今月は「つなぎ美術館スタッフ通信」(本誌2ページ)で、以前から関心があった思想家、柳宗悦についてふれてみました。彼の審美眼は天性のものなんでしょうかね。私も自分の感性を信じて貢献お宝??がいくつかあるんですが・・・嫁さんでももらった日には、燃えないゴミとして処分されることになります。(Tommy)



みなさんありがとう

津奈木での2年間の暮らしを終え、7月23日に母国へ帰ることになりました。この手紙が最後のものとなることを伝えなければならないのはとても悲しいことです。過ぎ去った2年間は信じられないほど早く、日本で新たな生活を始めるために準備していたのがついこの前のことのように思えます。私は、日本に関する多くの本を読み、実際に日本の文化を経験したいと強く願っていましたが、現実には日本での生活がどのようなものになるか全く分かりませんでした。

私が日本に来た当初、日本語を一言も話せず、箸の使い方や靴を脱ぐタイミング、おじぎの仕方も分からなかったことが遠い昔のことのようです。今では、日本式の習慣や伝統が生活の一部になり、自然なものになりました。多くの人に私の箸の使い方は日本人よりうまいといわれました。それは、おそらく御世辞でしょうが、それでも日本文化特有のもの、特に母国イギリスでは全く知り得なかった経験ができたことをとても誇りに思います。この2年間お世話になり、日本での生活習慣など、いろいろなことを教えてくださった人たちにとても感謝しています。みんなの手助けなければこんなに多くのことを学ぶことはできなかっただしよう。

私は、今、2年も離れた母国に帰ることを楽しみにしていますが、もう一方では、もう二度と経験する機会がないであろうものから離れることを悲しく思っています。毎朝お茶を飲む習慣、冬のこたつ、太鼓うち、夕方のラーメンのチャルメラの音、子供たちとのじやんけんなどです。また、多くの人に私が日本を離れる理由を聞かれました。日本に来た目的は、日本の文化を学び、言葉を理解し、話すことができるようになり、日本人の友人を作ることでした。現在、この目的は達成され、以前珍しかったことも当たり前に感じられるようになりました。今、新しいことにチャレンジする時期だと思うのです。私が体験するままにはうつておいでください、皆さんと生活の一部を共に過ごさせていただきありがとうございました。反対に皆さんも私を通じてイギリスの文化を学ぶことができればと思います。私は日本を忘れるとはないでしょう。さようなら。

Hello Chantal

こんにちはシャンタルです VOL.7

After two years of living and working in Tsunagi, it is with sadness to say that this will be the final piece I will be writing as I will be leaving Japan on July 28th, and heading back to my home country. I can hardly believe that 2 years have gone by so quickly, it doesn't seem so long ago that I was preparing to embark on a new chapter of my life - into a country and culture I had read much about and had a great desire to see and experience, but realistically didn't know what to expect or how my life would be whilst I was here. However thinking back to the time when I first entered Japan, unable to speak a word of the language, use chopsticks, knew when and when not to take my shoes off, to bow - it all seems like a lifetime away because Japanese customs and traditions have become a part of my life now, and very natural. Many Japanese people even say that I use chopsticks even better than they do (I think they are actually just trying to flatter me), but in any case I feel very proud and privileged to have been able to experience and learn things so unique to this culture, ultimately things I could never have learned back home in England.

I thank everyone who I have come into contact with these last 2 years who have taught me things, shown me how things are done in Japan - I wouldn't have learned so much without your help. Whilst a part of me is pleased to be returning to my own customs and way of life that I left behind 2 years ago, a part of me is very sad for the things, even the simple things, I have to give up and may never have the experience again - drinking 'scha' in the mornings, sitting under the kotatsu in winter, Taiko drumming, listening to the ramen van driving by in the evenings, playing janken po with the children..... Many people have asked me why I've decided to leave Japan now. For me, the challenge of coming to Japan was to learn about the culture, learn the language to an extent where I can understand and be understood and to make Japanese friends. I feel I've achieved what I set out to and I'm starting to take some Japanese things, that were once so unique, for granted. So it's time to move on and face the next challenge. Thanks for letting me observe and be part of your lives - in return I hope you've learned things about me and my culture. I'll never forget Japan! SAYONARA!!

今月は、美術館での職場体験実習を終えた、湯浦中学校3年生の宮本春香さんの感想です。

「楽しい2日間でした。想像していたより忙しかったけど、貴重な体験ができまし

◆期 間
8月4日(土)~9月4日(火)
◆観覧料
一般：200円
高校生以下：無料
◆テーブルコーディネート講座
(8月下旬予定)

第2回 ネールアートで ワーキングショップ 夏を楽しむ

爪のおしゃれを楽しむネールアートは、ここ数年脚光を浴びています。初心者向けのコースですので、短い爪の方もどうぞ気軽にご参加ください。

- ◆日 時 7月29日(日) 午後1時~4時
 - ◆場 所 つなぎ美術館アトリエ
 - ◆定 員 30名(先着順)
 - ◆締 切 7月17日㈭(定員になり次第締切)
 - ◆参加費 3,000円(道具代1,500円を含む)
道具代は各自負担

道具はお持ち帰りいただけます

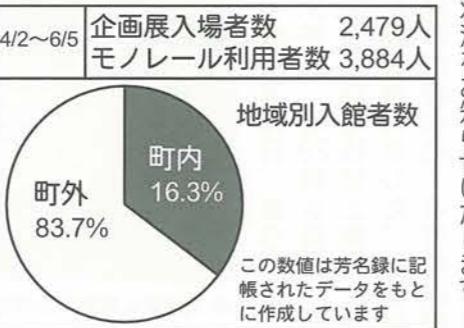
◆申込方法

美術館にある申込用紙あるいは、官製ハガキに住所、氏名、電話・FAX番号を記入のうえ、「ネールアート参加希望」と書き添えて、美術館までお申し込みください。

講師 森川 優子（ネールアーチスト）

横浜生まれ。南青山のネールサロンで竹下景子、芳村真理など多くのタレントのネールアートを担当。結婚を機に津奈木町に転居。現在、「あとりえ・びえーる」でネールアーチストとして活躍中。

企画展入場者数 2,479人
モノレール利用者数 3,884人



先月5日をもって
特別企画展「浜田知
明・佐藤忠良彫刻展」
が終了しました。そ
こで開館当日から特
別企画展終了日の6
月5日までの来館者
來館者状況をお知らせします

「父の日絵画展」で似顔絵を披露

楽しい子供の美術展

世界23カ国のお子様たちの作品を展示します。
コンクールなどに入賞した優秀な作品ばかりです。

◆期 間 7月12日(木)～7月31日(火)

◆録 録 料 一般：200円、高校生以下：無料

※7月8日(日)まで「境野一之絵画展」を開催中

つなぎ美術館
スタッフ通信

柳は日本民藝運動の創始者であり、今日よく使われる「民芸」という言葉は彼によつてつくれされました。柳は造形藝術における美術（柳は美術を「純粹に見るために作られた鑑賞的作物」と定義）を工芸の分業化によって生じたものとし、その理由として中宮寺の弥勒の半跏像（飛鳥彫刻の代表作）などに美術の特徴である鑑賞性、個人性、自由性がないことをあげています。

しいゐのです。このことは、「工芸」という字が造形芸術全般を含む意味で古くから中国で用いられていたにも関わらず、柳が定義した意味での「美術」という言葉は明治に訳語としてようやく日本に広まつたことからも伺えるとしています。また、造形芸術が美術と工芸に分化したこと、ひいては芸術そのものが分化したことの不幸を指摘しており、その結果発生した生活から遊離した芸術に否定的な立場をとっています。さらに、美術文化は工芸文化へと進展すべき、つまり生活に即したものとして存在すべきで、少數の天才のみによって支えられるものであつてはならないと述べています。このように、日常と直結した美をひたすら求める柳の姿勢に、疑問を抱く人がいなかつたわけではあります。柳が決して思いつきや個人的趣味から、工芸の重要性を説いていたのではないことがわかります。みんなも工芸品を目にしたときは、柳宗悦のことをちょっとと思い出してみてください。

子どもが衝動的に暴力をふるう理由については、人が感情的にしかったり、暴力をふるつた結果など、さまざまなお意見があります。また、自分の気持ちを言葉にするのが苦手なため、怒りや不安、ストレスを容易に暴力で表現するとも言われています。子どもが自分の感情を言葉で表現できるようになると、話をじっくりと聞く機会を設けるよう心がけ

子どもと向き合って
みんなで非行を防ぎましょう

青少年による殺人や暴力などの凶悪事件をはじめ、薬物乱用、性非行、いじめなど、子どもたちをめぐる諸問題が深刻化しています。なかでも、学校が休みになる7月から8月は、その解放感から非行に走ったり、犯罪被害に遭ったりする子どもたちが増加します。しかし、多くの場合、子どもたちのさまざまな態度や行動に、心の揺らぎを読み取れる危険信号が込められており、それに気付くことで非行を未然に防ぐことができます。親をはじめ、周囲の人たちは、日ごろから子どもときちんと向き合い、子どもの声に耳を傾けることが大切です。「難しい年ごろだから好きにさせておこう」といった安易な理解をせず、さまざまな兆候から子どもの心の変化を読み取るようにしましょう。

他人の体や心の痛みを感じ取れないまま成長してしまった子どもは、ちょっとしたきっかけで「いじめる子」になってしまいます。周囲の大人が「人の嫌がることはない」、ということを、しっかりと子どもに守らせてください。自分の子どもがいじめられていることに気付いた場合は、子どもへの話をよく聞き、なるべく早く学校の先生やカウンセラーに相談ください。

卷之三

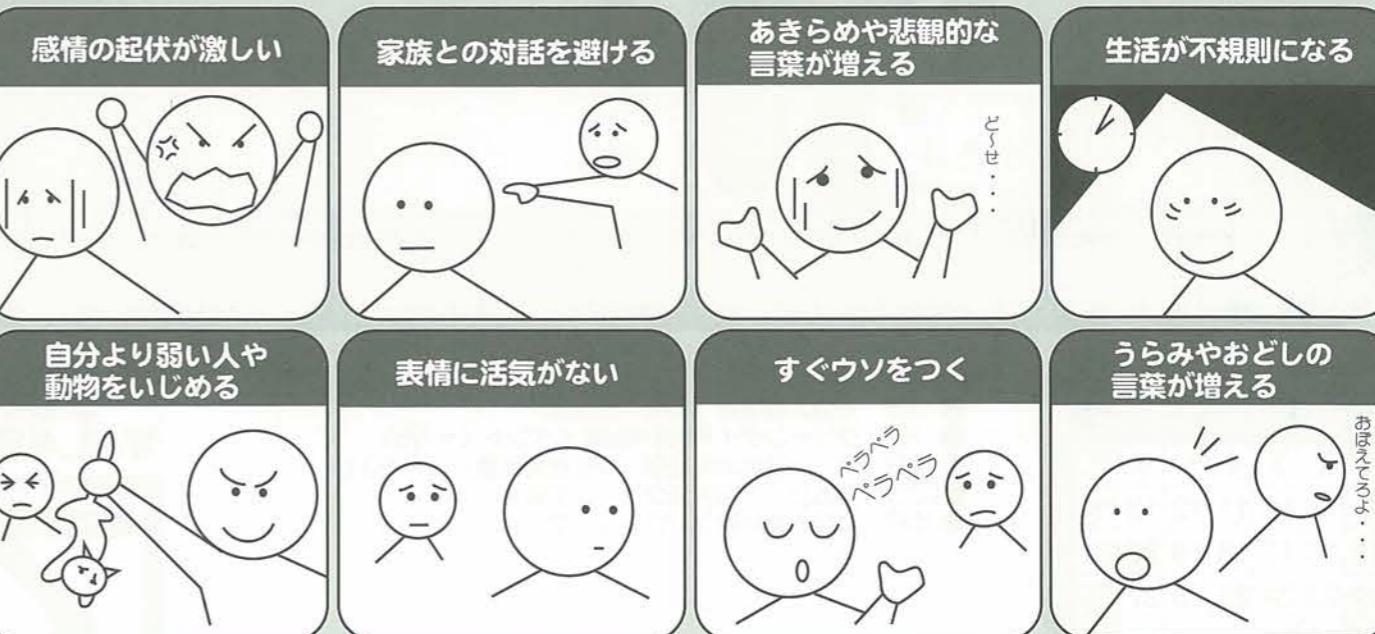
覚醒剤などの薬物を青少年が乱用する事件も目立っています。好奇心から手を出す例が多いようですが、日常生活に不安や不満、さびしさなどを抱えている子どもほど薬物の誘惑を退けることが難しいといわれます。家庭でも、普段から薬物の怖さを話し合える雰囲気をつくり、誘いを受けてもきっぱりと断れるように、子どもに意識づけることが重要です。

卷之三

遊ぶ金ぼしさで自ら性を
売る少女たちは、しばしば
「援助交際」という言葉に変
えて抵抗感を薄めているよ
うです。しかし、その実態
は売春にほかなりません。
家庭では性の話題がタブー
視されがちですが、安易な
性交渉がいかに自分を傷つ
ける行為であるのか、思春
期を迎えた子どもと話してみ
る機会も必要です。

七月は「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」です

こんなサインに注意



総合成績惜しくも第2位

くも第2位に終わったものの、小学5年生100メートルの部をはじめ、12の種目で津奈木町の選手が優勝を果たしました。



▲元気よく宣誓する津奈木選手団の福田大作選手

津奈木選手団大奮闘！

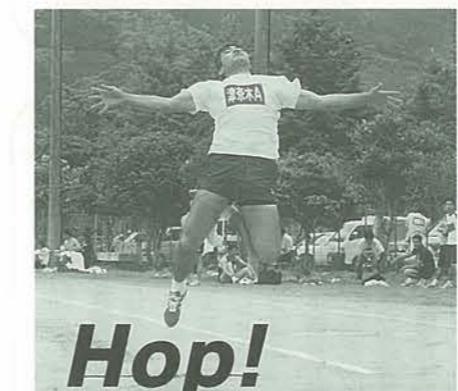
6月3日㈰、総合グラウンドで、第29回水俣市・芦北郡各町対抗陸上競技大会が開催されました。当日は晴天に恵まれ、4市町が参加するなか、津奈木選手団は、日頃の練習の成果を発揮して大奮闘しました。競技は4部門53種目。一般の部では見事に優勝を飾るなど、各選手の健闘が目立ちました。総合成績では惜しまれました。



津奈木選手団種目別優勝者

| 氏名 | 競技種目 |
|-------------------------|------------------|
| 福田 康孝 | 小学生5年男子100M |
| 堀田 将豊 | 一般男子29歳以下400M |
| 長濱 貴久也 | 一般男子40歳~49歳100M |
| 藤原 審二 | 一般男子40歳~49歳1500M |
| 津々木 護 | 中学生男子1500M |
| 藤原 恵美 | 中学生女子800M |
| 日野 昇・大渕満夫 山路英樹・上村幸一 | 一般男子50歳以上400Mリレー |
| 堀田 将豊・開田龍一 福田大作・篠原智和 | 一般男子29歳以下800Mリレー |
| 村上 美紀 | 一般女子34歳以下走高跳 |
| 緒方 利恵子 | 一般女子35歳~49歳砲丸投 |
| 福山 参良 | 一般男子30歳~39歳砲丸投 |
| 山下 和也 | 一般男子29歳以下砲丸投 |

※敬称略



Hop!
Step!
Jump!



部門別成績一覧表

| 総合成績 | | | 一般の部 | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 順位 | 市・町名 | 得点 | 順位 | 市・町名 | 得点 |
| 優勝 | 水俣市 | 503点 | 優勝 | 津奈木町 | 286点 |
| 2位 | 津奈木町 | 460点 | 2位 | 水俣市 | 277点 |
| 3位 | 芦北町 | 422点 | 3位 | 芦北町 | 264点 |
| 4位 | 田浦町 | 323点 | 4位 | 田浦町 | 166点 |

| 中学生の部 | | | 小学生の部 | | |
|-------|------|------|-------|------|-----|
| 順位 | 市・町名 | 得点 | 順位 | 市・町名 | 得点 |
| 優勝 | 水俣市 | 129点 | 優勝 | 水俣市 | 97点 |
| 2位 | 田浦町 | 92点 | 2位 | 津奈木町 | 92点 |
| 3位 | 津奈木町 | 82点 | 3位 | 芦北町 | 86点 |
| 4位 | 芦北町 | 72点 | 4位 | 田浦町 | 65点 |

Tsunagi Town News

5月30日・31日、津奈木中学校の3年生33人が津奈木保育園で保育実習を行いました。この実習は普段、生徒たちに実際に保育を体験してもらい保育学習にもつと関心をもつてもうおと技術・家庭科の授業の一環として行われたもので、0歳児から5歳児の各クラスに分かれた生徒たち



▲幼児いっしょにお遊戯をする中学生

保育園実習

幼稚とのふれあいを通じて

ちびっこ陶芸家登場



回7月5日に再び陶芸教室を訪れ、素焼きを済ませた器に色付けを行います。

小学生がヒラメを放流 大きくなつて帰ってきてね

6月7日、平国小学校の全児童55人が平国港でヒラメの稚魚を放流しました。これは県の補助を受けた津奈木漁協(福田謙組合長)が子供に海の大切さを知ってもらおうと毎年行っているものです。児童らはバケツに入った稚魚をそれぞれの思いを込めて平国港に放していました。事業全体では45,000尾が放流されました。



平国小学校お便り作戦

手紙とグッズで交通安全

5月24日、平国小学校で全児童が交通安全を願って書いた手紙を家族や高齢者に手渡しました。これは交通事故の犠牲者を減らそうと、昨年から行っているものです。福浦地区老人会長の福山貞彦さんは、お礼を述べると共に「ますます交通安全に心がけたい」と決意を新たにしていました。



